

## 令和6年度練馬区立幼稚園のあり方検討委員会（第1回）の要点

|   |   |                                   |
|---|---|-----------------------------------|
| 日 | 時 | 令和6年11月13日（水）                     |
| 時 | 間 | 18時30分から20時30分                    |
| 場 | 所 | 練馬区役所本庁舎12階<br>練馬区 教育委員会室         |
| 出 | 席 | 者 学識経験者、練馬区私立幼稚園協会、区立幼稚園長、<br>区職員 |

## 開会

- 1 委員の紹介
- 2 設置の経緯
- 3 区立幼稚園の現状について

## 【委員からの主な意見】

- ・ 区立幼稚園の園児数は増えていないが、障害児が多い状況であり、少子化が進む中でこれから区立幼稚園がどうあるべきかを考えなければいけない時期になっている。
- ・ 区立幼稚園と私立幼稚園が各々の役割と使命を果たし、共存共栄していくことが一番である。
- ・ 私立幼稚園ではグレーゾーンの園児数が非常に問題である。

- 4 他区における区立幼稚園の園児数等の状況

## 【委員からの主な意見】

- ・ 障害児保育と保護者のニーズは少し分けて検討する必要がある一方で、他区の区立幼稚園では2年保育の自治体の充員率は非常に低くなっている。

- 5 検討の視点について

## 【委員からの主な意見】

- ・ 区立幼稚園は保護者支援と子どもの公教育の質の高い部分が融合できると良い定型発達の園児がいる中に、支援を必要とする園児が入り、ともに育ち合うというのが本当の意味でのインクルーシブ教育ではあると思う。
- ・ 障害の有無を問わず子どもを受け入れるにあたり、どのように教育課程や教育の質を担保していくのかを改めて議論する必要がある。
- ・ 保護者は就労する必要があるから幼稚園を諦め、保育園を選択する方もいること

を考えると親のニーズは切り離せない。

- ・ 私立幼稚園は3年保育を実施しているがなかなか園児が増えない状況でもあるので、園の独自性や魅力など経営努力が大切である。
- ・ 私立幼稚園は障害児の受け入れを増やすほど赤字になっていくというのが実態である。
- ・ 私立幼稚園での障害児受入の議論も並行して行わなければいけない。
- ・ 私立幼稚園は園児の減少だけではなく職員の募集に苦労していることから、人員的配置の限界というものがあるのかもしれない。
- ・ 全体の人数が少ないので、1つの目的に向かって一緒に遊びの中で作り上げていく経験が難しい状況であるが、日々園児たちの力を引き出せるように試行錯誤している現状。
- ・ 障害の有無に関係なく、園児が自分の力を発揮する機会があり、良いところをお互いに認め合うことができている。
- ・ 主体性を重んじながらも遊びや環境を通して子どもたちが育っていくことを実感しているし、非認知的能力を育てることを考えている。
- ・ 質の高い教育のためには、障害児の割合をもう少し下げたほうが良いため、私立幼稚園がどのように受け入れていくかに加えて、3年保育や預かり保育についても今後の議論になっていく。
- ・ 3年間かけて、その子のよさも含めて理解していくのが良いと考えると、3年保育を実施する大きな意味がある。

## 6 保護者へのアンケート調査について

### 【委員の主な意見】

- ・ 今回、公立幼稚園に期待する機能が充足されるこれにより、選択肢が変わったかということを問うことがこのアンケートの本当の意味である。
- ・ 私立幼稚園のアンケートは3園以上とってもいいのではないかと。

### 【事務局】

- ・ 質問内容、対象園などは意見を踏まえて調整する。

## 7 その他

### 【委員からの主な意見】

- ・ 保育の様子を皆様にも共有したいので、日程が合えば区立幼稚園の見学を企画してほしい。

### 【事務局】

- ・ 区立幼稚園の見学日程は改めて調整する。